

## ■ 紙地図の雨天時対策が作業能率を向上する

現地調査・査定時には紙地図が不可欠である。しかし、紙地図は雨天時に破損しやすく、取り扱いが難しいほか、記入も困難であるなどの欠点がある。これを緩和するため、現場では以下のような対応策が採られた。①防水・撥水用紙による複製地図の作成、②加圧式ボールペンの活用、③ビニール製図面ケースの利用、④ビニール製ゴミ袋の活用

### 1. 防水・撥水用紙による複製地図の作成

地図複製においては、先ず防水・撥水用紙の利用を検討する。これであれば雨天時にも野外での利用が支障なくできる。地図収納ビニールケース等も不要であるため、現場での利用性は高い。

防水・撥水用紙で複製した場合の価格は、A0判で1,200円／枚程度とやや高価だが、使用時の利便性・快適性は高い。

### 2. 加圧式ボールペンの活用

近年では、雨天時に濡れた紙や低温時にも使用できる加圧式ボールペンが複数のメーカーから販売されている。濡れたり脂で汚れた紙でも、上向きの角度や低温でも、難なく筆記できるため、作業が受ける天候の影響を低減してくれる。通常のボールペンと比べてやや割高だが、替え芯は通常のもので使えるため割高感は小さい。

### 3. ビニール製図面ケースの利用

ビニール製図面ケースはファスナーもついているため防水機能は高く、柔らかいので丸めたり折りたたむこともできる。東日本大震災では、災害査定の現地説明において雨天時に有効であった。

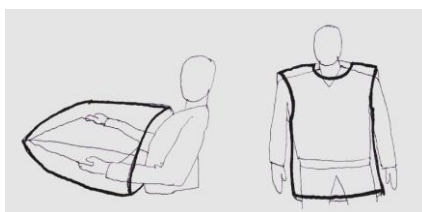
難点は、①図上に記入しようとするときファスナーを開く必要があるため防水には限界があるほか隅部の記入は困難で、②査定等の現地調査では地図一枚ごとに一式準備しても、その後の用途はないため不経済となることである。半日行程で必要な枚数等に対応し、地図を差し替えて使い回しをするなどの工夫が求められる。

市販されているのはA1判のものが最大であり、価格は700円／枚程度である。

### 4. ビニール製ゴミ袋の活用

透明のビニール製ゴミ袋60～900用に地図を挟んだ画板を入れて覆うことによって、雨天時にも防水・記入ができる。やや見にくい等の使用上の不便はあるが、応急の対策として簡便・安価で効果的である。新潟中越大震災では、現地作業に利用された。

ゴミ袋は、工夫によってポンチョ等にも活用できるなど、災害発生時の用途は広い。



野帳の雨避け及びポンチョの代用